CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	熊本駅北ビル	階数	地上13F
建設地	熊本市西区春日	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年
建物用途	事務所,物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月　予定	評価の実施日	2019年5月8日
敷地面積	3,911 ㎡	作成者	大森　正俊
建築面積	1,611 ㎡	確認日	2019年5月8日
延床面積	17,548 ㎡	確認者	大森　正俊

■ 外観

ください。

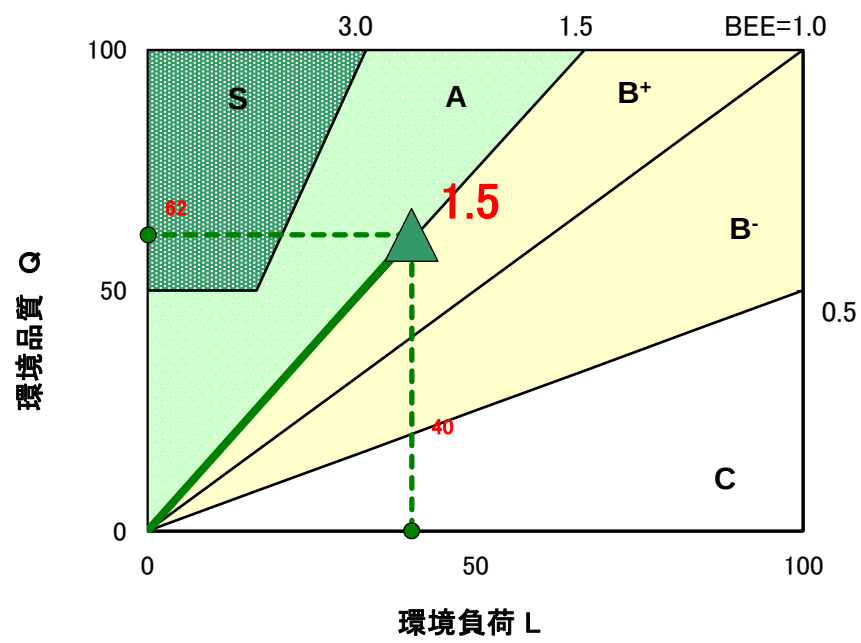
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★★★☆

BEE = 1.5

■BEE（環境効率） = Q（環境品質） / L（環境負荷）



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B−	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆

排出率
88%

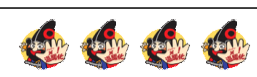
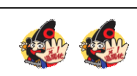
2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点 82

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	78.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	70.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	80.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	102.0

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　I使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要

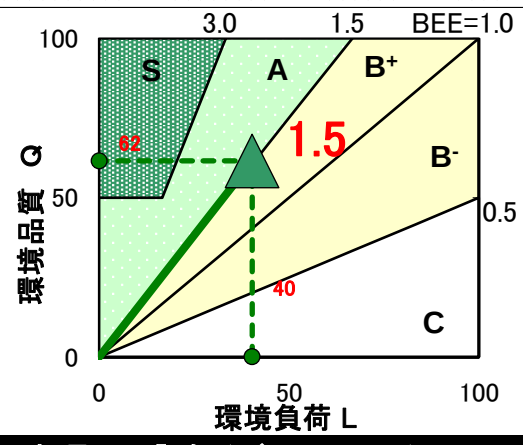
建物名称	熊本駅北ビル	階数	地上13F
建設地	熊本市西区春日	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年（想定値）
建物用途	事務所,物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月　予定	評価の実施日	2019年5月8日
敷地面積	3,911 ㎡	作成者	大森　正俊
建築面積	1,611 ㎡	確認日	2019年5月8日
延床面積	17,548 ㎡	確認者	大森　正俊

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

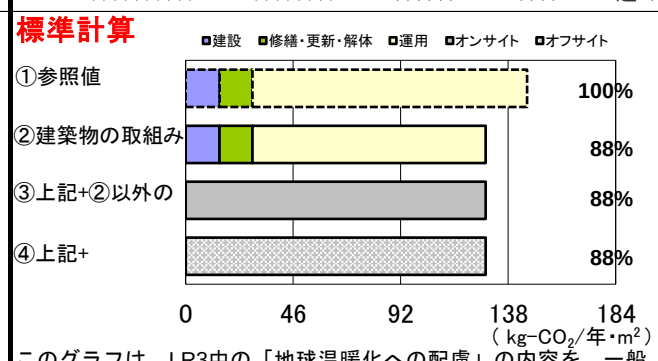
BEE =1.5

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



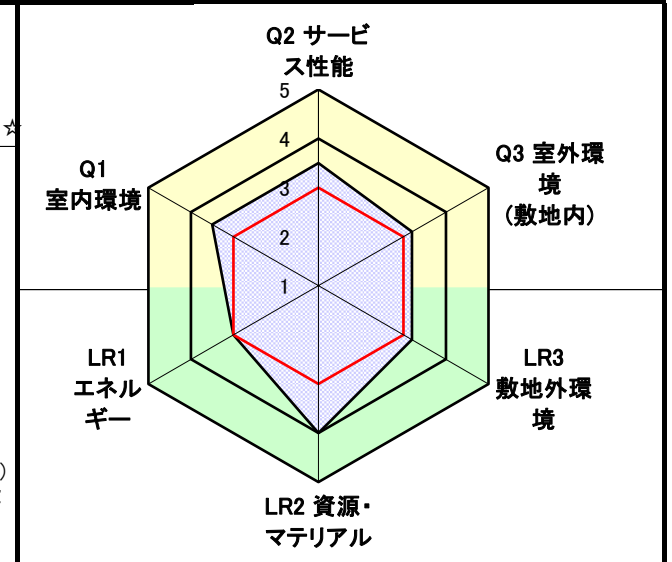
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

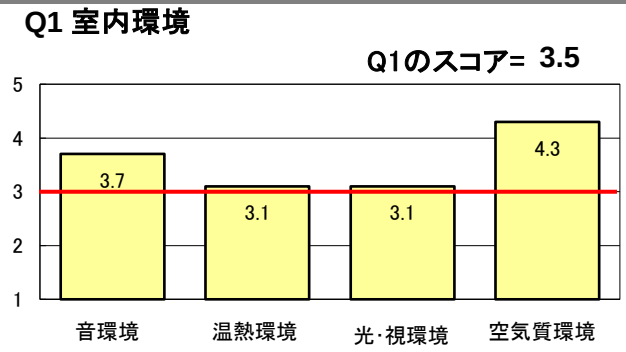
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



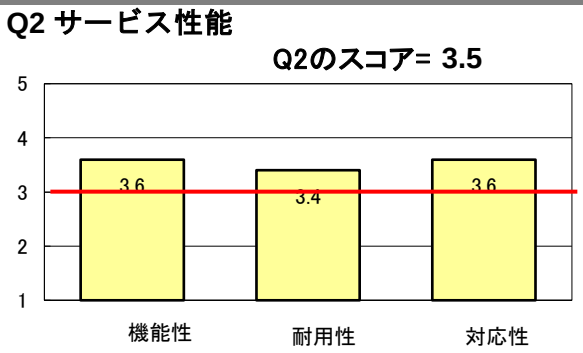
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.4

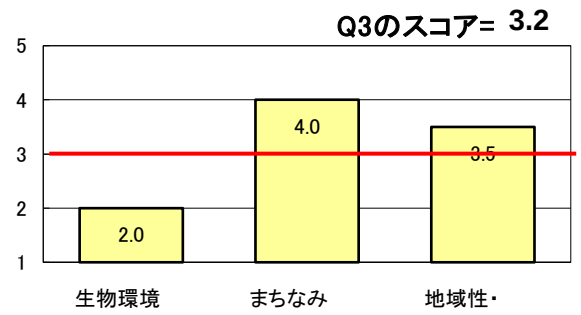
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.5



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.5

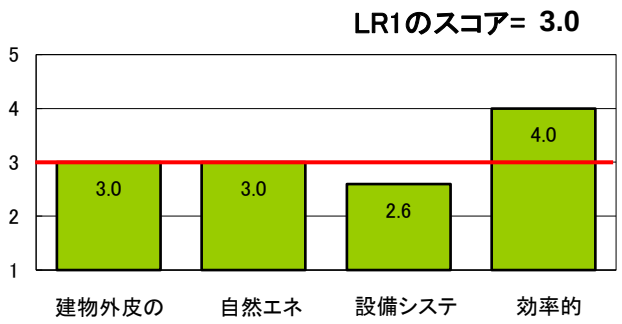


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.2

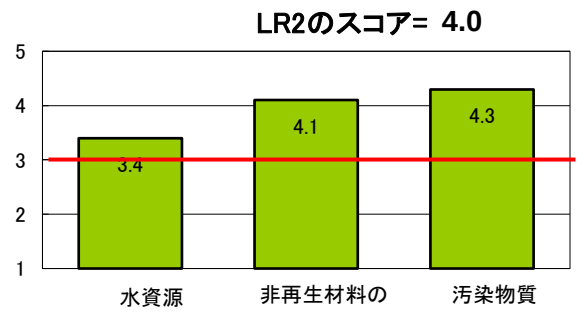


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.3

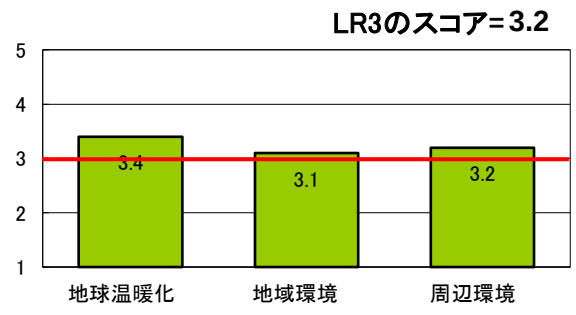
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 4.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.2



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 82

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 78.2

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =70.0

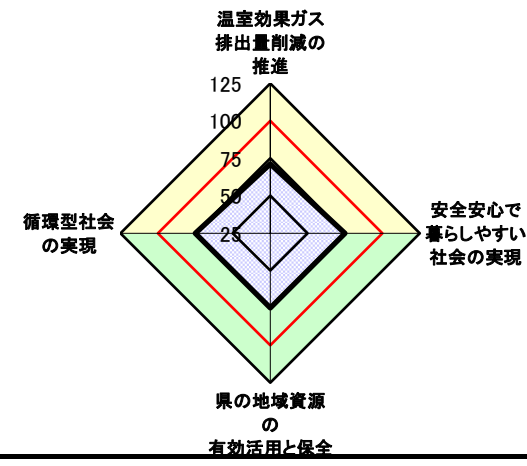
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 80.0

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =102.0

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
熊本駅北ビル

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.4**
Q1 室内環境			0.40		-	**3.5**
1 音環境		3.7	0.15	-	-	3.7
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		4.3	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	サッシ遮音性能　T-2	5.0	0.69	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.31	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	2面吸音(床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板)	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.40	3.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.23	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	3管式　ゾーン別冷暖選択可能	4.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.34	-	-	
1 昼光率		2.0	0.47	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	貸室照明で明るさセンサ制御を採用	4.0	0.53	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.24	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	全般照明方式で照度が500lx以上1000lx未満	4.0	0.12	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.30	3.0	-	
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-	4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	床・壁・天井・天井裏　ほぼ全面的にF☆☆☆☆	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.37	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.26	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.37	3.0	-	
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-	
1 CO_2の監視	手動計測、管理マニュアルが有効に機能	4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	基準階各階に喫煙室あり	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		—	0.30	-	-	**3.5**
1 機能性		3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.26	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.26	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.48	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室天井高2.8m	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-	
3 内装計画	取り組み4項目(コンセプト、機能、照明、事前検証)	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	取組み10項目(防汚性の高い仕上げの採用　ほか)	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	取組み7項目(清掃用具室に洗い場設置　ほか)	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外装カーテンウォール:40年	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床タイルカーペット:30年、壁ビニルクロス:20年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(B種VLP)、排水(B種VP)	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	取組4つ(①節水型器具②受水槽2槽③井水④緊急蛇口)	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	取組3つ(①非発②屋上CUB③引込二重化)	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.145	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	空調屋外機予備スペースあり	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	非常用発電機更新スペースあり	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			–	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		取組み4pt（まちなみへの調和　ほか）	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		取組み4pt（地域性のある材料の使用　ほか）	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.3
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] =　0.87	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理体制、エネルギー消費量目標や運用時の設備性能検証あり	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水器具を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		地下躯体に高炉セメント採用。	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイルカーペット、岩綿吸音板、ビニル床シート	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		取組み2項目 （躯体と仕上の分離　ほか）	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対称建材6財 （接着剤、シーリング材、防水プライマー　ほか）	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP100年値が50未満の製品を採用する	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出r率は参照値に対して90%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を不使用、空調および給湯はオール電化	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	取組み6pt （市駐輪場と一体的に計画）	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	取組み4pt（ゴミの推計、ストックスペースの計画　他）	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	取組み4pt	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

熊本駅前広場に面するテナントオフィスビルに相応しい、高品質かつスペースフレキシビリティに優れた業務ビルとして計画
同時に、敷地内外の環境形成や、駅前広場の賑わい創出など、地域の魅力向上にも配慮した全体計画

Q1 室内環境

外壁の開口率を最大限高め、十分な自然採光を確保
高性能ガラス・ゾーン別冷暖選択可能な空調方式を採用して入居者にとって快適な執務環境を実現

Q2 サービス性能

将来的な使われ方の変更にも対応しやすい自由度の高い内装・設備方式に加え、非常時も想定した電源・給排水方式を採用

Q3 室外環境（敷地内）

駅周辺建物と連続性を持たせ、熊本らしさを実現する外観により周囲のまちなみにバランスよく調和させ、バルコニー緑化や通り抜け通路の整備により地域環境、活動上のアメニティ向上に寄与

LR1 エネルギー

高性能ガラスによる日射熱負荷抑制、照明のセンサー制御等により、オフィス内で使用するエネルギーを大幅に低減

LR2 資源・マテリアル

水資源の保護の観点から、衛生器具は省水型機器を採用
躯体材料や内装材にはリサイクル材を積極的に採用

LR3 敷地外環境

駐輪場は市の駐輪場との一体運用により代替交通利用者の利便性に貢献
公共空間に面する照明は、防犯性に配慮した照明計画

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	*熊本駅北ビル*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				78.2	0.40	31.28
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				70	0.20	14.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				102	0.20	20.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数